

7/24(木)第2回図書館十和分館整備検討委員会 意見まとめ

①望ましい設置場所について（その理由）②望ましい規模感について

場所について	
教育・子ども	子どもたち向け、保育所・小中学校の集まる教育ゾーン
	子どもたちが自分の足で行ける、学校に行くときに立ち寄れる
	学校図書館と公共図書館の合築
地域観光	観光客向け、地域の人向けであれば、学校併設でないほうがよい
	お店が多いところ、にぎわってる場所…用事のついでに寄ってもらえる（運転できない場合も）
	地域の人がだれでもいつでも集まれる、多くの人が集まれる
	本が自然に目に入る場所（国道沿い）
	近隣図書館（大正・西土佐）までの距離を考えると、十川～十和川口辺りにあるとよい
昭和	地域のバランス（昭和小学校の跡地）
	駐車場や理想的な機能を確保できる
その他	空き家を活用した「まちなかまるごと図書館」
	人の流れをつくる図書館
	未来志向で人が集まる場所（いいものをつくる）
	地域にとって良い図書館
	みんながいいものを共有できる（人口増の核にもなる）
機能等	
学習	学校の授業で使える
	子どもたちに勉強しやすい環境を提供
	子どもたちの探求の学びの入り口
	公共施設は公共マナーを学ぶ場、自分たちでルールを考えていける場
サービスソフト面	多機能的な図書館（児童生徒・町民が活用する）
	周辺の困りごとを解決
	SNSも活用しての発信
	目的以外の資料・情報に自然と出会える場
	いろいろな人が集まる場所（本嫌いな人も集まれる）
	多世代交流
スペース・情報	ゾーン分け（静か・にぎやか・情報発信）
	読んだ本を紹介できるコーナー
	企業からの本（雑誌）のスポンサー制度
	俳句・感想文などの発表の場（スペース的な余白）
	郷土の歴史、地域の情報、四万十川、先人の活動
	地域を残していきたい
	鮎が泳いでいる水槽
	デジタルアーカイブ化、デジタルゾーン、サイネージ活用、検索機能
	書庫・駐車場
	災害時の避難場所、猛暑時等のクールスポット
	→一時的な利用ではなく、普段から使っている場所がクールスポットになることの必要性
	読書室兼学習室（静かに集中できる場）
	個室で外部と繋がれる、誰でも使えるパソコンなどもある環境
規模・建物について	
町長への意見書では1万2千冊だったが、これは昭和小と同程度。 学校図書館と公立図書館は役割も対象も違う。	
近隣図書館の課題を参考にそれをカバーできる規模（書庫の問題など）	
温室管理なども重要なため、既存施設の活用ではなく新しくつくる（最低限の条件）	
本館・大正分館や近隣図書館を比較対象としない（課題があるため）	